

ITU-T SG9 議長 (WTSA-16 選出 (新任)) 宮地 悟史氏 (KDDI) に聞く

【読者のための豆知識】

SG9 (第9研究委員会)の活動内容:

映像・音声伝送及び統合型広帯域ケーブル網

専門領域: 動画の圧縮、画質評価、ケーブルテレビ網・モバイル回線含む
ネットワークを用いた映像・音声配信

略歴: 1995年 早稲田大学理工学研究科 修士課程了
1995年 国際電信電話(株) (現KDDI) 入社
1998年 ITU-T SG9 参加 アソシエイトレポート就任
2006年 東工大総合理工学研究科 博士後期過程了
2008年 ITU-T SG9 副議長就任
2015年 VOD、IP放送、音楽配信事業運営
2016年 ITU-T SG9 議長就任 (現在に至る)



— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。
今回、議長に任命されたことについて率直なお気持ちは?

(宮地) SG9は欧米諸国から廃止が提案されていた中存続し、かつ、議長に任命いただいたことは、ITU-Tに関る様々な方々のご尽力・ご支援の賜物であり、心より御礼を申し上げたいという気持ちです。

— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(宮地) 専門領域は、ケーブルテレビ網やモバイル回線を含む、通信ネットワークを使った映像・音声の配信技術です。現在では、KDDIのVODと音楽ストリーミングサービスの事業運営を担当しています。ITU-T SG9は1998年より参加しており、約18年間活動を続けています。

— これから議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか?

(宮地) 技術標準化の観点では、ケーブルテレビ伝送技術の進化(4K/8Kの実用化にかかる周辺技術、DOCSISケーブルモデムの次世代版等)に加えて、次世代アプリケーション(VR、AR、自由視点テレビ等)の研究を進めます。さらには、昨今参加が急増している途上国に対するケーブルテレビ導入支援のためのインプリガイドやテクニカルレポートの整備も急務です。

— 議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか?

(宮地) 「各地域におけるケーブルテレビ事業の発展に資する」です。ケーブルテレビ事業を取り巻く環境は、各地域において、経済的状況、並びに、放送事業とケーブルテレビ事業との関係性が様々に異なっています。SG9は、各国や地域の事情に合わせたソリューションを提供すべく活動して参ります。

— 議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか?

(宮地) マネジメントチーム(議長、副議長、事務局)の一体感、マネジメントチームと参加者との信頼関係が重要と考えています。議長席から見下ろすだけでなく、ラポーターグループセッション等にも積極的に参加し、同じ目線でコミュニケーションを続けていきたいと思えます。

— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(宮地) ITU-Tに求められる役割が、従来の標準化(勧告策定)に加えて、技術格差の解消や技術の国際展開といった領域にまで広がってきています。わが国含む加盟国や産業界は、ITU-Tの新たな役割を理解するとともに、世界のICTビジネスの発展のためにITU-Tを適切に活用することが期待されます。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(宮地) 「多様な価値観を理解し受け入れる」ことです。休日は、とくにこの季節(秋冬)は、キャンプが趣味です。焚き火で暖を取り、ランタンの灯りの下で、食事をするのがリフレッシュになっています。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(宮地) 国際標準化活動の意義は人それぞれ異なるかもしれませんが、ここでしか得られない体験や人間関係は本当に貴重なものと思えます。皆さまの積極的なITU-T参加(もちろんSG9に限らず)を期待しています。